

騒音・危険・資産価値低下

羽田増便による低空飛行ルートに反対する川崎区民の会ニュース

2023年3月 NO-18 代表世話人 橋 孝 TEL 044-287-7313 ・ 田辺一雄 TEL 044-333-7833

橋本勝雄 E-mail : Katsuo.hashimoto@gmail.com

『新飛行ルートに対する公開質問状』

統一地方選挙、県会・市会に川崎区から立候補を予定されている皆さんに「公開質問状」をお送りいたしました。回答が届いていますので、2回分けてお伝えします。

質問 (1) 「新飛行ルート」に変更したことについて、どうお考えですか

① 賛成 ② 反対 ③ どちらでもない

理由 ()

国際線を1日80便から130便に増便することで人や物の流れを活性化し、経済効果を目ざすとして、羽田空港の運用を従来の飛行ルート(海側から着陸し海側に離陸する)から、羽田空港が混雑する時間帯に、東京都心の上空と川崎区上空を飛行する「新ルート」を強行しました。(右の図は川崎区上空の飛行ルート)



質問 (2) 航空機からの部品落下やバードストライク(鳥との衝突)、更に墜落事故の危険があります。「原則コンビナート上空は飛ばさせない」という1970年の国と市の約束(通知)を市が容認して破棄しました。これは正しい判断だったとお考えですか。

① 正しい ② 間違っている ③ どちらでもない

理由 ()

川崎石油コンビナート上空の飛行制限は、1970年に金刺不二太郎市長(当時)の要請を受けて航空局長名で発行されました。

2019年12月、東京航空局・東京国際空港長は川崎市福田紀彦市長宛に、川崎石油コンビナート上空の飛行制限を廃止する通知を行いコンビナート上空の飛行を認めました。

質問 (3) 川崎市の「防災対策計画」に照らして、航空機事故への対応が必要だと思いますが、すぐに「被害想定」をつくるべきだと思います。どうお考えですか。

神奈川県「石油コンビナート等防災計画」に照らし(以下同文)

① はい ② いいえ ③ どちらでもない

理由 ()

「街の声」航空機の部品落下や航空機事故でコンビナートが大規模災害が発生した場合は何処に避難すればよいのか不安。「街の声」高齢者と一緒にいるが、誰か助けてくれる人は見つかるか不安。

(右写真:2021年米国コロラド市街地に落下した航空機部品)



質問 (4) 南風時、午後3時から7時までの間、航空機が爆音をとどろかせて飛んでいます。大師地域を中心に多くの住民から「何とかしてほしい」という声が上がっています。住民の声を直接聞く(教室型)「住民説明会」をすぐに開くべきだと思いますが、どうお考えですか。

② はい ② いいえ ③ どちらでもない

理由 ()

国土交通省が2020年3月から運用開始される「羽田新飛行ルート」に先立ち、実機飛行確認を行い騒音測定を実施し公表しました。川崎区殿町で2月7日に測定した騒音は最大94デシベルで92デシベル以上の測定時間は5秒を記録しています。

(参考:一般的な騒音レベル)

110 db : 自動車のクラクション(前方2メートル)

100 db : 電車が通る時のガード下、地下鉄の構内

90 db : 騒々しい工場の中

80 db : 走行中の電車の車内

70 db : 騒々しい事務所の中

60 db : 静かな乗用車・通常の会話

質問 (5) こどもたちへの影響が心配です。騒音やコンビナート事故の危険に日々さらされていることは、川崎市の「子どもの権利条例」(安心して生きる権利) に反していると思いますが、どうお考えですか。

- ① 反している ② 反していない ③ どちらでもない理由 ()

国によって子どもが暮らしている社会は違います。そのため、できるだけ子どもの暮らしている場所にあわせた約束をつくるのが大切です。川崎市では、川崎のこどもにあった約束を「こどもの権利条約」をもとに、多くの子ども・おとなの意見をとり入れ、つくることにしました。そしてできあがったのが、子どもの権利条例です。

- ① 安心して生きること
- ② ありのままの自分でいること
- ③ 自分を守り、守られること
- ④ 自分を豊かにし、力づけられること
- ⑤ 自分で決めること
- ⑥ 参加すること
- ⑦ 個別の必要に応じて支援を受けること

【「公開質問状」の回答】

	敬称略	質問 (1)	質問 (2)	質問 (3)	質問 (4)	質問 (5)
市	嶋崎 嘉夫	記述	記述	記述	記述	記述
議	山田 えり	記述	記述	① 記述	① 記述	記述
会	後藤 まさみ	② 記述	② 記述	① 記述	① 記述	① 記述
議	片柳 進	② 記述	② 記述	① 記述	① 記述	① 記述
員	田中 ハヤト	③ 記述				
候	浜田 昌利	③ 記述	③ 記述	③ 記述	③ 記述	③ 記述
補	浦田 大輔	③ 記述	③ 記述	③ 記述	③ 記述	③ 記述
県	杉山のぶお	記述	記述	記述	記述	記述
候	沼上とくみつ	② 記述	② 記述	① 記述	① 記述	① 記述

*記述の記載は意見等を記載されている意味です

回答を寄せて頂いた皆さんに、心からお礼を申し上げます。「新飛行ルート」は住民の命・環境に直接影響する問題であり、立場の違いを超えて一緒に対応を考える課題だと思います。記述内容をよく検討し、一致出来ること・協力しあえることはすぐに実行に移す決意です。

『新飛行ルートと防災』

3月8日、市予算審査特別委員会
片柳進議員(共)の質問(要約)

質問① 航空機事故を「重要な災害」と考えていないのか
いまだに被害想定すらない。防災アセスメント(評価)の実施を要請しても、市は「県から検討していないと聞いている」と言うだけ。消防庁は「災害の重要と考えられる場合には独自に評価を行うことを推奨する」と言っている。実際に東京都のコンビナート防災アセスメント調査は、航空機災害を想定している。

答弁① 危機管理監

神奈川県は、消防庁の防災アセスメント調査方針に基づき、航空機に関する災害についても含まれるとの認識から、調査を行う予定はないと言っている。

質問② 県に対しアセス調査実施を求めよ

もし災害が起きれば大変な被害を受けるのは川崎市であり、川崎区民。県に対してアセス調査を行うよう求めるべき。

答弁② 危機管理監

神奈川県は、「県石油コンビナート等防災計画」があり、新たな調査は行わないと言っている。市としても要請はしない。

質問③ コンビナートの大規模事故を想定した訓練を

川崎駅に近い中央地域の市民や自主防災組織の方々には、まだ十分コンビナート大規模災害の際に、爆風や飛散物などがあり屋内避難が想定されていることは知らされていない。

答弁③ 危機管理監

防災訓練での講座や冊子の配布等を通じて啓発を行ってきたが、実際の避難行動は津波訓練はあるが、コンビナート火災に関する避難訓練は行っていない。

意見要望

「令和4年交通安全白書を見ると、このルート上で、40年に1回程度の事故の可能性がある。「想定外」では済まされない。事故の危険に直面している川崎市が、その危険に向き合った対応をするよう強く求める。

《 4・5月行動計画 》

☆ JR川崎駅東口宣伝

4月8日(土) 14時~15時

5月20日(土) 14時~15時

☆ 拡大世話人会(教育文化会館 第3会議室)

4月28日(金) 15時~16:30

5月26日(金) 15時~16:30

☆ シマホ前宣伝

4月11日(火) 15時~16時

☆ ヨーカドー前宣伝

5月11日(木) 15時~16時

☆ 京浜急行川崎大師駅前

4月22日(土) 14時~15時

5月27日(土) 14時~15時